

MHzで受信して画像を構築した。対象はTEEで弁の腫瘍と疣贅等が確認された症例について検討した。

【結果】THIでは通常の心エコー法よりも心臓内の構造物の輪郭がはっきりと認められ、条件が良ければTEEに近い像も得られた。

【考察】THIは心臓内の異常構造物の検索に有用であると考えられたが、その理由として①第二高調波はある程度の深さがなければ生じないためプローブと皮膚の接触部分や肋骨などの浅い構造物によるアーチファクトが軽減されること、②第二高調波は固相の方で液相より強く生じるため液相と固相の境界が強調されるためなどであると考えられた。したがってTHIは通常の心エコーよりも心機能計測等に有効であるだけでなく心臓内の異常構造物の検出にすぐれているものと考えられた。

#### 5) 右心房血栓の2手術例

竹久保 賢・中沢 聡	（新潟市民病院）
名村 理・吉谷 克雄	
金沢 宏・山崎 芳彦	（新潟大学）
渡辺 弘	
津田 隆志	（木戸病院）
保坂 幸男・伊藤 英一	
田辺 恭彦・鈴木 薫	（県立新発田病院）
	（内科）

心房細動に伴い右心房に生じた血栓に対する手術を経験したので報告する。

症例1：71才女性 46歳時に肺動脈狭窄に対する手術の既往あり。6年前より心房細動を指摘されている。平成10年5月頃より動悸、息切れを自覚。心エコーで右心房に腫瘤を認めた。手術は完全体外循環を行い心拍動下に右心房切開、約3cmの大きさの腫瘤を摘除した。病理組織検査では表面に新鮮血栓の付着した血栓であった。

症例2：63才男性 昭和61年より心房細動を指摘されていた。平成10年3月肺炎で入院時、胸部レ線に異常陰影を認め、CT、心エコーで右房腫瘤と診断された。手術は腫瘤を摘除しメイズ手術を追加した。腫瘤は大きさ2.5cmの血栓であった。術後心房細動は消失し、AAIペーシングで心房収縮の改善を認めた。

#### 第26回新潟高血圧談話会

日時 平成10年11月13日（金）  
午後6時より  
場所 新潟大学医学部 有壬記念会館  
2階大ホール

#### 特別講演 I

「地域医療とインターネット—地域医療情報ネットワークと患者データの保護—」

新潟大学医学部附属病院医療情報部

羽柴正夫先生

(e-mail: hashibamed.niigata-u.ac.jp)

世界的な規模のコンピュータネットワークであるインターネットは1980年代後半に研究者の利用が盛んとなり、1990年代には商用化により広く一般に開放され世界的に普及してきた。新潟大学にインターネットと接続された学内LANが整備され、稼働したのは、1994年5月のことである。新潟地域でも、全県的なインターネットフェスティバルが1996年に開かれるなど、急速に普及してきた。医療への、このコンピュータネットワークの応用が期待されている。

インターネットで利用できる代表的な情報サービスは、電子メール、WWW（ホームページ）、ネットニュース、MEDLINEなどのデータベース検索や遠隔地のコンピュータの利用などが挙げられる。なかでも、電子メールおよびホームページは多くのユーザがあり、代表的なアプリケーションといえる。インターネットに接続された組織のLANが整備されていれば、パソコンを情報コンセントに接続し、必要な設定をするだけで、これらが使えるようになる。あるいは、電話回線を利用してインターネットサービスプロバイダーに接続することになる。電子メールは、瞬時に相手の私書箱に、はがき（電子化された文書）が届く。画像などのファイルも添付することができ、いずれも再利用ができる。ホームページは、文書の中に、画像や自分の持つ文書だけでなく、他のサーバーの情報に到達するためのリンクが記載ができる。リンクをクリックすることで容易に種々の情報を閲覧でき、キーワードから該当するホームページ検索する「検索エンジン」のサービスもある。

このようなインターネットに組織のLANが常時接続されている医療機関は少ないが、関係者のダイアルアップ接続での利用は広まっている。地域医療情報ネットワー